

魚病診断結果

沢田健蔵・池脇義弘

平成5年4月から平成6年3月までに養殖魚及び種苗生産や中間育成時に発生する病害について、水産試験場への持ち込みと養殖場の巡回調査時の検体について診断した結果を表1及び表2にまとめた。

表1 平成5年度診断結果（淡水魚）

魚種	病名	月											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
アマゴ	せっそう病	3	3	2	1	2			1				
	ビブリオ病				1								
	細菌性鰓病	2	1										
	白点病					1							
	ガス病						1						
	不明			3							1	1	1
アユ	ビブリオ病	2		1	3	1				1	2		4
	シュウドモナス病			3							3	3	4
	冷水病	6	9	3	5	1	1			1	2	12	8
	滑走細菌症		1										
	その他細菌性疾病		1					1					
	ギロダクチルス症		1	1									6
	ミズカビ病		1		1	1						1	
	その他			2									
	不明	3	3		1							2	2
ウナギ	エドワジェラ症			1								1	
	頭部かいよう病											1	
	メトヘモグロビン血症	1	1							1			
	不明		1										

平成 5 年度診断結果（海産魚）

魚種	病 名	月											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ブリ	ビブリオ病			3	1								
	類結節症				2	2							
	連鎖球菌症					1		6			4	1	
	ベネデニア症					2							
	不明				1								
ヒラメ	エドワジエラ症	1		1		3	1						
	ビブリオ病	1											
	連鎖球菌症					1							
	滑走細菌症	2	1										
	細菌性疾病											1	
	リンホシスチス症		1										
	アミルウージニウム症				1		2	1					
	スクーチカ症	2	1	1				1					
	コスタア症			1									
	事故					1							
	低温障害	1											
	不明	1											
マダイ	イリドウイルス症					1							
	不明							1					
トラフグ	ビブリオ病			1									
	ヘテロボツリウム症					1							
*1	不明											1	
*2	連鎖球菌症											1	
*3	類結節症							1					
*4	ビブリオ病						1						

*1 オニオコゼ *2 シマアジ *3 キジハタ *4 クルマエビ

診断結果

内水面における診断件数はアユ 103 件、ウナギ 6 件及びアマゴ 24 件となり、総件数は 133 件であった。海産魚における診断件数はブリ 23 件、ヒラメ 26 件、マダイ 2 件及びその他の魚類 6 件となり総件数は 57 件であった。

アマゴではせっそう病の診断数が多く、アユでは冷水病及びシュードモナス病の診断件数が増加した。また、シュードモナス病では 1 月から 3 月の件数が多くなった。

海産魚では、ブリの類結節症の件数は減少したが、これに代わり連鎖球菌症の件数が増加した。ヒラメでは、陸上池での寄生虫性疾病のアミルウージニウム症及びスクーチカ症の件数が多くなっている。

薬剤感受性試験結果

アユの *V. anguillarum* A 型の薬剤感受性試験結果は、スルファモノメトキシ及びオキシリンは一部に高感受性を示す菌株もみられたが、大部分は低感受性であった。フロルフェニコールは全て高感受性であった（表 4）。

アマゴの *A. salmonicida* の薬剤感受性試験結果は、スルファモノメトキシ及びオキシテトラサイクリンでは一部高感受性菌株も見られたが、オキシリン酸では全て低感受性であった。フロルフェニコールに対しては全て高感受性であった（表 5）。

ブリの *V. anguillarum* C 型の薬剤感受性試験結果はスルファモノメトキシに低感受性株が見られたが、オキシテトラサイクリン、オキシリン酸及びフロルフェニコールには高感受性を示した（表 6）。

ブリの連鎖球菌 α 型の薬剤感受性試験結果は、エリスロマイシンに低感受性を示す株が見られた（表 7）。

ブリの *P. piscicida* の薬剤感受性試験結果は、アンピシリンに全て高感受性であったが、オキシリン酸及びフロルフェニコールに低感受性株も見られた（表 8）。

表 3 薬剤名

SMM:スルファモノメトキシ	DOT:ドキシテトラサイクリン
OTC:オキシテトラサイクリン	OA:オキシリン酸
ABPc:アミノベンジルペニシリン	EM:エリスロマイシン
SPM:スピラマイシン	NFS:ニフルスチレン酸ナトリウム
FF:フロルフェニコール	

表 4 アユから分離した *V. anguillarum* A 型の薬剤感受性試験結果

感受性程度	薬剤名		
	SMM	OA	FF
+++	2	1	7
++			
+			
-	3	6	

表 5 アマゴから分離した *A. salmonicida* の薬剤感受性試験結果

感受性程度	薬剤名				
	SMM	OTC	OA	NFS	FF
+++	1	4		2	7
++		1	7	2	
+		2		1	
-	6			2	

表 6 プリから分離した *V. anguillarum* C 型の薬剤感受性試験結果

感受性程度	薬 剤 名								
	SMM	DOT	OTC	OA	ABPc	EM	SPM	NFS	FF
+++	1	3	3	3		1		3	3
++	2				2	2			
+					1				
-							3		

表 7 プリから分離した連鎖球菌 α 型の薬剤感受性試験結果

感受性程度	薬 剤 名								
	SMM	DOT	OTC	OA	ABPc	EM	SPM	NFS	FF
+++		5			7	5		8	5
++		1	6		1	1	4		3
+	1	2	2				3		
-	6			8		2	1		

表 8 プリから分離した *P. pscicida* の薬剤感受性試験結果

感受性程度	薬 剤 名								
	SMM	DOT	OTC	OA	ABPc	EM	SPM	NFS	FF
+++		3		2	6			5	4
++		3	1	4		2		1	
+			5			2			2
-	6					2	6		